

平成 29 年度 研究計画書

Research Plan FY2017

講座名・職名 Course Title・Job Title	日本語・日本文化専攻 講師
氏名 Name	山泉実
専門分野 Academic Field	言語学

平成 29 年度 研究計画（ホームページで公開） Research Plan FY2017 (Post on Website)

主たる研究テーマ Principal Research Subject	①NP-ハの層状節構造における位置 ②コピュラ文名詞句の解釈多様性を扱える認知語用論の構築 ③逆隠喩 ④潜伏極性疑問名詞 ⑤隠喩と提喩の境界事例と言われているもの				
<p>①NP-ハの層状節構造における位置を Role and Reference Grammar の枠組みで、私が以前に研究した左方転位の観点から再検討する。その成果を RRG 2017 などで発表し、論文にまとめる。</p> <p>②本研究が乗り越えようとする名詞句の意味論、情報構造理論について、目下取り組んでいる研究を論文にし、一区切り付ける。関連テーマについての研究成果を見直し、分析に必要な諸概念・理論的枠組みを整理する。特に、文を逐次処理する最中の句の処理などのマイクロレベルに注目した研究と mental files についての研究を重視する。</p> <p>③佐藤信夫が新たな比喩の種類として提起し、あまり顧みられていない「逆隠喩」を関連性理論の語彙語用論の観点から検討する。昨年度の学会発表を踏まえ、研究成果を論文にまとめ、投稿する。</p> <p>④極性疑問を潜伏させている名詞の存在は管見の及ぶ限りまだ報告されていない。これについて日本語、他の言語を調査し、成果を論文にまとめる。</p> <p>⑤隠喩と提喩の境界事例と言われているものを認知文法の使用依拠モデルの観点から捉え直し、問題設定自体が間違っていることを示す。</p>					
共同研究可能な分野 Research Fields feasible for joint research *1					
キーワード Keywords*2	層状節構造	名詞句の“意味機能”	逆隠喩	潜伏疑問	提喩